



「遠野旅の産地直売所」現地視察を開催しました

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所地方振興部

登米地域事務所地方振興部では、令和2年度から登米市の農家民泊・民泊（以下、「農泊等」という。）の開業、運営支援を実施しています。令和2年度は開業希望者へのアドバイザー派遣による申請手続等の開業支援、令和3年度は農泊等運営者及び体験コンテンツ提供者を対象とし、施設運営研修会の開催、運営方針、体験コンテンツや提供サービスを明確にするワークショップを実施するなど、施設運営の土台固めを行いました。

令和4年度は、6月8日（水）、9日（木）に、これまでの研修会参加者を対象に、農泊等やグリーンツーリズムに先駆的に取り組んでいる岩手県遠野地域において現地視察を開催しました。

遠野地域では、複数の体験コンテンツの企画・造成や、現地の暮らしぶりを体験できる遠野での過ごし方を提案する「遠野旅の産地直売所」などを通じて地域活性化に取り組んでいます。

1日目は、「遠野旅の産地直売所」の取組の

うち、地元案内人と一緒にまちあるきをして地域の商店で様々な体験を行う『まちぶら体験』や、農家民宿での宿泊を通じて、体験プログラムや施設の運営手法などを3班に分かれて体験しました。

また2日目は、これらの取組を実施する、特定非営利法人遠野山・里・暮らしネットワークの主任コーディネーター 田村隆雅氏を講師に、参加者同士が視察内容を共有するとともに、今後の施設運営に繋げるためのワークショップを実施しました。

参加者からは、「実際に体験してみると、新しい発見や課題が見えてきた」「感想を共有したことで自分の考えを整理できた」「今後の活動に繋げていきたい」という声があり、参加者それぞれの個性をいかした施設運営を実践する足がかりとすることができました。当事務所では引き続き農泊等の施設運営支援に取り組んでいきます。



「遠野旅の産地直売所」でのまちぶら体験



ワークショップの様子

棚田遺産の沢田集落で交流会が開催されました

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業振興部

登米市津山町の沢田集落は北上川沿いの丘陵地に位置する自然豊かな地区で、約20年前から傾斜が急な棚田でのとうもろこし栽培を続けてきています。令和元年度からは、とうもろこしの定植や収穫作業を通しての都市住民との交流にも取り組んでいます。

集落では棚田を含む里山風景の保全活動にも取り組んでおり、これらの取組が評価されて令和4年2月に農林水産省の「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」の一つに認定されました。

今年度の活動として、6月7日に石巻専修大学の学生との交流会が開催されました。当日は糖度の高いとうもろこし品種である「味来」の植付作業を予定していましたが、あいにくの雨模様で作業は中止となり、代わりに地区代表者と

学生との座談会が行われました。座談会では、学生からとうもろこしを使った商品開発や農業体験ツアー、SNSを活用した情報発信などが提案され、活発な意見交換が行われました。

とうもろこしは8月上旬に収穫期を迎える見込みであり、集落では、朝採りで甘みの強い新鮮なとうもろこしの販売会を、新みやぎ農協津山支店等を会場に開催する予定です。



座談会の様子

「市民参加の新たな森林づくり・春」を開催！

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所林業振興部

登米市と共催で「市民参加の新たな森林づくり・春」植樹祭を開催したところ、横山小学校みどりの少年団の親子のほか、登米市市有林カーボンオフセットクレジットを継続して購入している気仙沼市の(株)八葉水産の社員など合計約150名の参加がありました。

当日はあいにくの雨模様の天気でしたが、津山

町森林組合による植樹指導を参考に、参加者同士で協力しながら、コナラの苗木800本の植樹作業を無事に終えることができました。

多くの市民の方々が鍬をふるって熱心に植樹を行う様子を見て、地域に浸透・定着した行事であることを実感しました。



植樹作業に意欲満々の参加者！



小雨がぱらつく中での植樹作業

「大清水地区（東和町錦織地内）」のほ場における 無人田植機の実演会について

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所農業農村整備部

令和4年5月23日に(株)五十嵐商会主催のもと、大清水地区（東和町錦織地内）のほ場（耕作者の松野秀郎氏所有）で無人田植機の実演会が開催されました。実演会には、(株)五十嵐商会をはじめ、クボタアグリサービス(株)、登米市内の農業者、登米市東和町土地改良区職員、登米地域事務所農業農村整備部及び登米農業改良普及センター職員の約30名が参加しました。

無人田植機とは、GPSに位置情報を記憶させリモコン操作により、無人で自動的に田植えをすることができる機械のことです。人の運転を伴わないことにより、人件費の削減や田植機の操作に慣

れていない方でも「精度」や「能率」をキープできるなどのメリットがあります。

実演会を見学した農業者からは、「実際に見学して、この無人田植機が田んぼの内側だけではなく、あぜぎわまで植え付けしていることに驚いた」「間近で農業のICT技術を見学できたので、とても有意義だった」などの声がありました。

今回の実演会を通して、農業者は無人田植機による作業の効率化などのメリットについて、理解を深めた様子でした。



無人田植機実演会の様子（1）



無人田植機実演会の様子（2）

<東部地方振興事務所 登米地域事務所からのお知らせ>

～公式InstagramとTwitter「ほっとめーしょん」
で登米地域の“ほっと”な情報を発信中です～

おすすめの食べ物や景色、施設のほか、季節のおすすめスポットなど、登米地域の様々な魅力情報を職員目線で発信しています。

投稿内容は、「ほっとめーしょん」で検索していただくか、右のQRコードよりご覧ください！



Instagram



Twitter

登米地域の代表牛決定！

～第15回登米市畜産共進会開催～

宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所畜産振興部

5月20日JAみやぎ登米南方農畜産物集出荷場にて、第15回登米市畜産共進会が開催されました。今年の共進会は、例年行われている地域の和牛改良の成果を競う共進会とは異なり、今年の10月に鹿児島県で開催される、5年に1度の全国和牛能力共進会（以下全共）に向けた地区選考会として開催されました。

今回出品された26頭は「和牛のオリンピック」といわれる全共に向けて選抜され、日本一を目指して生産者の元で鍛えられてきた雌牛のため、とてもレベルの高い共進会になりました。特別区（高校・農業大学校の部）に出品する登米総合産業高校の生徒達も、他の出品者同様に、自分

たちで育ててきた雌牛を堂々と出品していました。

今回の登米市畜産共進会で代表牛として選ばれた雌牛たちは、7月8、9日に開催される令和4年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）に出品され、県代表の座を競います。

登米市共進会后に、出品に向けた調教指導会が行われるなど、出品者、指導員、関係機関が一丸となり、前回の宮城大会を上回る成績を目指した活動に取り組んでいます。

今後も、登米地域の和牛の活躍にご注目ください。

出品区分	県共出品牛		出品者		出品区分	県共出品牛		出品者	
	名号	父牛	地区	氏名		名号	父牛	地区	氏名
第2区 若雌の1	えりな	茂福久	迫町	小野寺 正人	第6区 総合 評価群 (種牛)	ひろいとなみ	洋糸波	豊里町	佐々木 瑞生
	いわじ	洋糸波	迫町	伊藤 博幸		みきお	洋糸波	迫町	守屋 和典
	ろおどすたあ	茂福久	東和町	猪又 樹		ゆり2	洋糸波	米山町	高崎 大喜
第3区 若雌の2	みきお	洋糸波	迫町	守屋 和典		ひろさち	洋糸波	豊里町	(株)カブキファーム
	まひる	洋糸波	迫町	チバズファーム(株)		まひる	洋糸波	迫町	チバズファーム(株)
	まりひろなみ	洋糸波	南方町	高橋 徹		まりひろなみ	洋糸波	南方町	高橋 徹
第4区 繁殖 雌牛群	ゆりひろ	勝洋	迫町	伊藤 博幸	特別区	さくらば23	洋糸波	中田町	登米総合産業高校
	ふく	好平茂	米山町	高橋 亨					
	さいぜんれつ	好平茂	迫町	小野寺 正人					
	かなのこ	茂洋	迫町	チバズファーム(株)					

令和4年度宮城県総合畜産共進会（肉用牛の部）出品牛



審査員による体型の確認



代表牛が選抜されました

高病原性鳥インフルエンザの初動対応を実施しました

宮城県東部土木事務所登米地域事務所

岩手県一関市で発生した高病原性鳥インフルエンザの対応として、家畜伝染病予防法に基づき、職員による関係車両の消毒を実施しました。

当事務所の職員だけでは対応が困難だったため、土木部各課及び各事務所からの応援職員の派遣とともに、登米市からも資材提供などの御協力をいただき、初期段階の車両消毒作業を終了することができました。



消毒ポイントの設置

◇実施内容

消毒ポイント：登米市中田庁舎

実施期間：5月12日（金）～15日（日）の
3日間（24時間体制）

従事者数：延べ60名

消毒車両数：延べ14台



車両の洗浄状況

地震による公共土木施設の災害査定が行われました

宮城県東部土木事務所登米地域事務所

令和4年3月16日に発生した福島県沖を震源とする地震により、登米市では震度6強を観測し、公共土木施設においては国・県道などの道路施設を中心に大きな被害を受けました。

県では、被害復旧を行うため、5月30日～6月3日までの5日間に、国から被害状況及び工事費用を確定するための災害査定を受けました。

県管理の施設として、復旧箇所は18箇所にのぼり、復旧費についてはおよそ6億6千万円を計上することとなりました。

当事務所では、工事を速やかに発注し、早期の復旧に向けて取り組みます。



現場での被害状況の説明



舗装の破損状況の確認